

news 88

第1号

2000年11月

株式会社プリマ楽器

〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-1-8

TEL 03-3866-2221 (東京部) TEL 03-3866-2224 (営業部)

FAX 03-3866-2222 http://www.prima-gakki.co.jp/

札幌営業所

〒060-0031 北海道札幌市中央区北1条東9-11-50

TEL 011-219-7121 FAX 011-219-7115

ピアノ指導者 および愛好者のみなさまへ

早いもので20世紀も残すところ1カ月半ほどになりました。

「ニュース88/創刊準備号」を発行後、全国各地の読者の皆様より、内容に関するご要望を数多く頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。

次号からは、「今のピアノ教育に望むこと」と題して、楽譜の著者の先生方からコメントをいただく連載企画を開始する予定です。読者の皆様からの投稿記事なども、折に触れて紹介してまいります。

ご意見・情報・アイデア・ご提案など、ふるってプリマ楽器楽譜営業部までお寄せ下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成12年11月吉日 プリマ楽器楽譜営業部

「NEWS88」の主な内容

- 最新情報の掲載「今月のNEWSな楽譜」
新刊ばかりでなく、今、何が「旬」な楽譜なのか、厳選の上、ご紹介いたします。
- 連載「今のピアノ教育に望むこと」(次号より)
楽譜の著者の先生方から、こんにちのピアノ教育に対して、様々な視点からコメントをいただきます。
- 連載「ピアノ指導の現場から」
毎月、「魅力あるピアノレッスン」を展開されている先生を、おひとりずつご紹介してまいります。
- 連載「ピアノレッスンの今後」
楽譜の著者やピアノ指導法講座の講師より、レッスンでの悩み事解決や新しい指導法のノウハウをご紹介いただきます。すべて、NEWS88のための書き下ろしを予定しております。
- 連載「ここだけのNEWSなCD」
音楽評論家、諫山隆美(いさやまたかよし)先生による、「ピアノ指導者のためのとっておきの一枚」をご紹介いたします。

※その他、読者のみなさまからのご要望に応じて、適宜、最適な内容を考えてまいります。

今月のNEWSな 楽譜 & グッズ



レスナー手帳2001年版

森本琢朗・池田恭子 考案

B6判/128ページ/定価(本体1200円+税)

ドレミ楽譜出版社

音楽教室等の生徒のレッスン管理や、レスナー自身のスケジュール整理等に活躍する、大変便利な手帳です。年間、月間スケジュール、生徒名簿、月謝入金表など、使いやすいと多くの先生方に評判です。

ミュージックダイアリー



2001

218ページ/定価(本体900円+税)

音楽之友社

週ごとに音楽史記事を掲載。2001年度来日予定演奏家、作曲家年表、音楽家名簿、関連団体名簿、主要楽器店名簿等資料満載!

Now Printing

受験のための楽典' 2001

《主要音大2000年度楽典入試問題と解答、解説》

バンセ・ア・ラ・ミュージック編/

B5判/184ページ/定価(3600円+税)

龍吟社/リズム・エコーズ

全国の主要音楽大学の最新年度の楽典入試問題を掲載。全問題の模範解答と解答への手引きを詳しく解説。また主な音大の入試類似傾向課題も付してある。受験生の楽典問題の総仕上げに最適。

★ONTOMOピアノピースファイル①～⑩

全10巻/菊倍判/各64ページ/各巻定価(本体700円+税)

音楽之友社

《エリーゼのために》から《亡き王女のためのパヴァーヌ》まで新しい感覚で選曲したピアノ名曲集。ガーシュインやバルトークらの近現代曲も多数収録。全収録曲も多数収録。全収録曲の解説や楽語表もついて、発表会の選曲にも大変便利です。メジャーエワ演奏によるCDが日本コロムビアより発売予定。

★日本の音楽コンクール、オーディション、 音楽祭全ガイド 2001年度版

B5判・230ページ 予価2000円

ショパン編集部

前回は大好評だったガイドブックの2001年度版がショパンの別冊で登場!! 国内のあらゆるコンクール関連の情報満載。歴代受賞者や審査員等の資料も豊富。これ一冊であなかもコンクール通!

★ピッピッ ぴあの《はじめましての巻》

菊倍横判/56ページ/定価(900円+税)

/石川登美子、伊澤満代、川又裕子 編

共同音楽出版社

導入用ピアノ教本。ピアノ上達に重要な読譜、絶対音感を身に付ける事を主にした内容。確実に各々の子供のペースに合わせて学習出来ます。本書は充分実践してその成果を結実して出版しました。

★音楽大学学校案内 短大、高校、専修

2001

B5判/定価(本体4800円+税)

音楽之友社編

2001年度の学校課題曲170校分掲載。2000年度の入試問題も網羅。受験生必携アイテム
毎年新しく情報を追加して出版してまいりますので、レスナーの方々の資料としてお役にた下さい。

ピアノ指導の現場から

導入期の指導のスペシャリスト

藤原亜津子先生 (茨城県竜ヶ崎市)



60人近くの生徒を指導しながら、バスティンメソッドの指導法に関する講座で全国を飛び回る藤原亜津子先生。講座では誰もがあの「楽しくゲーム感覚」なレッスンと、いつの間にか立派な演奏でステージを飾っている藤原教室の生徒達の実力を驚き隠さないはずだ。今回はその秘密の一端をさぐるべく、バスティンの「ピアノパーティ」によるグループレッスンを取材した。

藤原先生は「楽しくゲーム感覚」なレッスンを実践することがとすると明確な目的意識をばかしてしまう一面があることを見抜いている。したがって、講座ではかならず「生徒の弱点をつねに見つけるように心がける」姿勢が必要と、付け加える事を忘れなない。

「楽しくゲーム感覚」だけの教育の陥穽をつねに「意識」している、きびしい眼差しがある。それは具体的にどのように現れるのだろうか。

藤原先生の手元には、「さらに可能性を求めて」とその題名を冠され手書きでびっしりと書き込まれた「チェックポイント体系表」があった。「レッスンカルテ」とでも呼ばいいたいだろうが、「ゆび番号」「手の形」「7つの音の名前(白鍵)・・・」指導における膨大な数のチェックポイントを書き出してまとめているのだが、必ず何回も復習しながら、その都度その都度弱点をみつけて再確認するためのものだ。一度できたからといって次に出来るとは限らない。そのときまでできていたものが次にまだできるまでいるかどうかはわからない。絶え間ない復習、チェックが必要であり、藤原先生はそれを実践している。

「んーなんか大変そうにしているね。じゃあ予定になかったけど、<おやねたいそう>やってみようね」言葉はやさしくても、生徒がどの点においてまだ理解が行き届いていないか、をつねに探っているのだ。「お、あきちゃんの手の形いいなあ。」出来ない子を指摘するのではなく、出来ている子を注目させて自分の弱点に気づかせる。褒められた子は得意になって自信をつけるから一石二鳥である。

ゆび番号と手の形と音の名前。これだけのことを「仕込む」レッスンのしつこいばかりの丁寧さ、そこにこめられたさまざまなチェックポイント。細胞に折りたたまれた遺伝子の情報のように、後々学習する事項の萌芽が

いくつも重ね合わされている。「234」「321」「531」実際にゆび番号を3つずつ言わせながら、ゆびを動かす。これは、後に番号だけが書かれたカードをみて実際に鍵盤上で指を動かす訓練や、8分の6拍子のリズムを学ぶための「伏線」である。紙の上に点を10個書かせて、紙自体は動かさずに定規で2点を結び線分を考慮される限りたくさん作る。一見音楽に関係ないこの遊びも、10本の指先への意識の集中と、脱力に必要な「手首の回転」が不可欠な要素となっている。このようにして藤原先生の頭の中には、「伏線」が張り巡らされまくっている。いつでもどこでも、生徒の反応に応じて、それぞれの子どもに必要なドリルをその場で臨機応変に提示する。しかし、もちろん子どもは単線的にゲーム感覚でそれらをこなすばかりであり、本当に楽しそうだ。これが藤原マジックの真髄である。

「いい。『意識』してないと、何も見えないし、聞こえないんだよ。意識するって、気にするって言う事ね」一瞬、自分が論じられたのかと疑ってしまう。藤原音楽教室で学ぶこと自体が、子どもたちの人生にとって大きな伏線を作っているのかもしれない。藤原先生は、そこに積極的な意味と誇りを見出している。(取材日：2000年11月5日)

岩瀬洋子講座予定
11/6(月)10:15-12:15「楽しい指読み指導をしていますか?」導入指導マスター講座:第2回目
会場:サンリツ一番町音楽センター 問い合わせ:022-227-6541
12/4(月)10:15-12:15「演奏に活かせるリズム指導/ソルフェージュ指導」導入指導マスター講座:第3回目
会場:サンリツ一番町音楽センター 問い合わせ:022-227-6541
1/19, 2/23, 3/16, 4/20, 5/25, 6/22(金)9:45-12:00「導入指導マスター講座」
会場:東京芸術劇場 第5会議室(池袋駅西口徒歩3分) 問い合わせ:0559-89-3900 (ミュージックキー担当:植松)

田村智子講座予定
11/5, 2/23, 3/16, 4/20, 5/25(金)9:45-12:00「アルフレッド楽譜講座」
会場:東京芸術劇場 第7会議室(池袋駅西口徒歩3分) 問い合わせ:0559-89-3900 (ミュージックキー担当:植松)

⑤ 「ああー」はなんだろっ！
④ いつもお迎えに毎回結構って私が挨拶しているのに
③ 真剣にレッスンをしている最中に、新聞を一目一杯広げてワザワザ音を立てて、せめて半行本にしてよ！
② ピアノのレスンと関係ないでしょ人のことより自分の心配なやつだ
① いつもお世話をなっていますべらい言ってるしわ。もう何年もレッスンをしているんだから、私の名前くらいもういっかげん覚ええよ。

⑤ 今回は親自身のマナーについてでしたが、これはピアノのことだけでなく、社会全体が感じていることではないでしょうか。以前は、こちらがきちんとしているのは気が付かずにいたが、甘かった。最近はその気が付くようになってきて、筆者を例に言いたいことを間接的に伝えます。それでも伝わらない場合は通じたりもします。いずれにせよ、後味の悪くなる事態は避けたいですね。
④ 親は口出しせずに待っているというのには驚くですが、まるでこに誰もいないようにしてちゃんと音を出したり、新聞をガサッくめつて音をたてたり、もう少し気遣いがあったらいいと思いませんか？
③ ピアノの意識が低いです。「お母様ですか? A子ちゃんも楽しんでるよ」って話してしまったり、な、一言二言から話と不思議なもので「話聞いてますよ」という言葉を返してしまったり、家裏の方針や手帳が手帳が、積極的に返すのフツツ面を待たせてるんですよ。
② 最近悲しいかな、「おんには」と言っても「...」声さえ聞えない、おんがの挨拶、ひどいときはまったく無反応、涙を流してばかりです。聴者の方でよい方法があればぜひおしえて下さい。
① 親しい間柄だから「え、けめがほしいものです。すぐに返さる関係ありませんが、そのない場合は返さない、承知しました。お母様」など、意識的距離を置いてほしい、承知しものです。でもおかししい、「おん」とい教師の親戚に話した態度が必要で、それ同時にサブリと聞き流すテクニックも持たせたいですね。

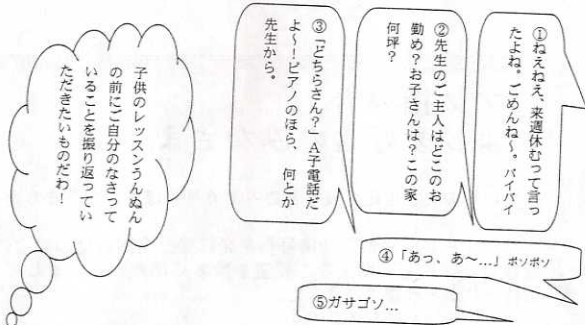
憤慨コーナー

落ち着こうコーナー

～連載～ ピアノレッスンの今後

親のマナーシリーズ 第2話「おやっ? 親がへん?」

親の言いたい放題や非常識な態度に泣かされることもおありのことと思います。「おやっ? 親がへん?」では、様々なケースについて取り上げます。



岩瀬洋子・田村智子

ミュージックキーピアノスクールを主宰し、生徒や教師を指導、実務的な指導の機能を反響を呼び、全国で読者、著作物—オリズムピック、ソ—ヨヨミとファデスおうし、せんかんブラザーズ、ケンとパン、ドレミリアランド・5指のデクノク、スケールとアルペジオ、わがわがワーク、わがわが曲集、ピアノの広場、春の夜明け、ピアノスプラッシュ、カレイドスコop、アルフレッドピアノ教本、ゴフインガーズ、みよきかきよ、パツハインヴェンション分析の巻き、ハノン指の筋トレ

ここだけのNEWSなCD

アルゲリッチ&ルービンシュタイン ショパン ピアノ協奏曲 第1番、第2番

今年2000年は5年に1度開催のショパン国際ピアノコンクールの開かれる年で、先月10月5日から19日間にわたり、ショパンの祖国ポーランドの首都ワルシャワで行われました。今回は第14回を数え、予備審査を通過した98名が参加、第1、2、3次予選、本選、入賞者コンサートの全日程を視察し、現在の若手ピアニストの動向、現状などを捉えてまいりました。



予想をはるかに上回る程の変化が見られ、殊に日本のピアノ初等教育に対する問題点が大いに浮き彫りとなった一方で、日本人のレベルは決して低くはないことも事実です。いずれにせよ、現在評価され、要求されている演奏の種類、性質の動向を常にキャッチし、指導内容や方向性を随時検討し続けることが、これからのピアノ指導に要求されるのは間違いないでしょう。出来ることならばこのショパンコンクールやその他国際コンクールを視察し、現状を

山 隆美 (音楽評論家)

武蔵野音楽大学音楽学卒業。現在、ピアノ評論を中心に「音楽現代」「シヨパン」「ムジカノヴァ」「音楽舞踊新聞」等に執筆する他、コンサートのプログラムノートやCD曲目解説などを手がける。1993年4月~11月TAMAららびにて、パーソナリティの黒田晋也とともに、期間限定FMラジオ放送のクラシック音楽番組(毎週日曜日)の構成・解説を担当。日曜日の番組最高視聴率を得た記録も持っている。1998年より、(社)全日本ピアノ指導者協会主催「WA-MOONFEST ピアノ協奏曲全曲演奏会」のプレ・レクチャー担当。1999年より池袋東武カルチュアールピアノ音楽史の講座を担当して現在も続行中。先月2000年10月はワルシャワで開かれたショパン国際ピアノコンクールの全演奏会をホームページ上で即日レポートを公開。前代未聞のこの試みを国内外のマスコミから愛好者に至るまで大きな注目を浴び、歴大な数のアクセスを得る。コンクールの詳細は同協会会報「OUR MUSIC」の他、「ムジカノヴァ別冊」「音楽現代」12月号に掲載予定。社団法人全日本ピアノ指導者協会、本部事務局に勤務、同協会正会員。

知ることが、ピアノ指導者にとってとても重要なことと言えましょう。そこまで出来ないとしても、日常の音楽鑑賞の重要性は今後ますます大きくなり、指導力向上に直結していくのです。ショパンコンクールの詳細レポートは全日本ピアノ指導者協会会報「Our Music」、「ムジカノヴァ別冊」「音楽現代」の各誌に執筆予定ですので、ご覧頂けますと幸いです。

さて今回は、過去のショパンコンクールに因んだ演奏家と、とびきりの名演がリリースされましたので、ご紹介致します。まず、1960年第6回のショパンコンクールのオープニングコンサートで当時73才だった審査委員長のアルトゥール・ルービンシュタイン(1887~1982)がショパンのピアノ協奏曲第2番を弾いている演奏です。この回では当時18才だったマウリツィオ・ポリーニが第1位を受賞した演奏家であり、とびきりの名演が聞かれました。もう1曲は同じくショパンの第1番の協奏曲で、ソリストは1965年第7回で第1位入賞のマルタ・アルゲリッチが、1992年にワルシャワで演奏したライブ録音です。今回の審査員も務めたアルゲリッチのライブ録音は、ルービンシュタインとは全く対照的な演奏ながら、これまで以上の素晴らしい録音を聴くことができます。(デジタル・メディア・ラボ DICA-24016 ¥2,447)